

西東京市 視覚障害者協会 お知らせ

情報ほっとライン

令和 8 年 1 月

第 39 号

発行:西東京市視覚障害者協会 連絡先野口(0422-77-7653)

■情報ほっとラインをお聴きの皆様、明けましておめでとうございます。

今月号は、年始の1月1日から書き始めました。東京に転入して、お正月を迎えるのが、7回目になりますが、いつも、快晴に恵まれての正月を迎えさせていただいています。東京では10数年に渡って快晴の正月を迎えているとテレビの番組で話していましたが、1年を通して、快晴の心で過ごせればと願っての、初詣に出向いております。

皆様にも、平穏な快晴が続く1年であります様に…

なお、西東京市視覚障害者協会は今年度(2025年度)から、市内の福祉活動団体として、西東京市のホームページに掲載していただきました。活動団体として、交付頂いた市内福祉活動団体の助成金を活用して、協会活動の様子や、視覚障害に関する情報やイベント案内、過去の会報を広く知って頂く目的に、ホームページを公開しました

(<https://nishishikyo.org/>)。視覚障害当事者での運用なので、どのような展開になるかは分かりませんが、お訪ね下さい。

さて、今月号は、

- 1) 東京都生涯学習センターの視覚障害者向け講座『読書をあきらめない!』に参加からの話題提供
 - 2) 「西武柳沢駅・東伏見駅」での改札窓口の駅員配置が、来月(2月3日(火))から無くなることについて
- の話題をお送りします。今年も1年、宜しく願いいたします。

▼1) 東京都生涯学習センターの視覚障害者向け講座『読書をあきらめない!』に参加からの話題提供

東京都教育委員会が提供している「視覚・聴覚障害者」を対象とした「生涯学習講座」があります。毎月、異なるテーマではありますが、教養講座だけでなく、生活に密着した話題の講座も見られます。以前に、「西視協からのお知らせ(情報ほっとライン内)」にても、幾度か教養講座を通じての話題を紹介させて頂きました。

(2023年6月号:障害者手帳を有する者の割引運賃の適用に関するマメ知識)

(2024年11月号:東京都心身障害者福祉センター主催の視覚障害者のための防災講座)

今回は、先月に開催された、「読書をあきらめない!身近な道具を使って読んだり、調べたりしてみよう。スマホやスマートスピーカーなど一般に普及している道具を使って、読書を楽しんだり、必要な情報を調べたりすることができます。当日は、デモンストレーションをまじえながら、役に立つ情報を取り上げます。また、図書館サービスの活用法についてもご紹介します。」との触れ込みでした。

テーマが、少しアバウト過ぎた案内だったのでしょうか。拡大読書器についての情報を知りたい方、デジ書やバリアフリー図書について全く知らない方、サピエ図書館について全く知らない方から、ヘビーユーザなどの混沌とした参加者でしたので、まとまりがない状況となりました。されど、西視協からのお知らせをお聞きくださっている方、図書館などに置かせて頂いている印刷を見て下さる方への参考にと、野口の私見を交えてになりますが、いくつか紹介です。

・バリアフリー図書について簡単な説明:「りんごの棚」と言う図書館活動と共に紹介がありました。読書バリアフリーと関係する話題ですが、余り触れられなかったので、野口が調べた情報を来月の記事にして紹介します。

・オーディオブックの紹介:出版社自らが書籍と同じ内容の朗読図書を販売していますが、対応する書籍が少なく、ネットを介して利用する場合は、有料会員になることが必要な事や、CDなどのデバイスで提供される場合、1冊の本に対して複数枚のデバイスになることや、価格が書籍の定価に比べて高いことが紹介されました。一方、出版社によっては、実際の書籍を購入してから、視覚障害者として出版社にテキストファイルの提供を依頼すれば、応じてくれることもあるとの紹介がありましたが、かなり例外的な対応では無いかと思います。この他一部の出版社で、読みやすいフォントに変更して大活字化した本を同時出版する例もあります。

・サピエ図書館の説明:全国の図書館で朗読図書を作成した図書や、テキスト化したファイル、点字印刷できるようにしたファイルを、インターネット上での図書館に寄せ、視覚障害者に提供しているシステムとして、紹介されました。これらは、全国の図書館に所属されているボランティアに依って作成され、それぞれの図書館からアップロードされて共同利用されています。サピエ図書館を利用するにあたっての条件の説明もありましたが、利用の道具・機器についての説明では、PC・専用機器・タブレット端末・スマホ・スマートスピーカーなどがあることを紹介されました。デモンストレーションは、タブレット端末のiPadでのVoice of Daisyと、ブラウザで簡条書きした質問や調査を行うAIサーチの操作の様子が紹介されました。なお、Voice of Daisyはスマホ用の有償アプリです。いずれの環境においても、装置の入手、便利な再生アプリには、コストが必用ことの説明が乏しいことや、また多様な参加者でしたので、途中から言葉が判らない

などの声があり、この様な講座の難しさを感じました。それぞれの状況で、情報が必要な方は、野口からもお答えできる範囲で答えたいと思いますし、西東京市図書館ハンディキャップサービス担当さんに、ご相談・お尋ね下さい。

・国立国会図書館が進めている過去の全出版物のデータ化が進行しており、それを検索・閲覧できるシステムの「みなサーチ」の紹介がありました。国内で出版される書籍は「知の財産」として、後世に残していくことが求められています。このため各出版社や研究者の報告書などは、国立国会図書館に提供することが義務付けられています。従来は書籍そのものを保存していましたが、20年ほど前から、それらをスキャナーして、画像データとしての保存が始まりました。現在では、新版の書籍は自動的にデータ化されるか、データでの提出が行われています。その「みなサーチ」は、過去の書籍の落とし込み作業中でもあり実証実験段階だと言えますし、データもいずれ、誰もがアクセス可能になりますが、先ほどの通り画像として保存されており、画像として見るか、OCR機能で見ることになるとの事を、野口が参加している電子出版関係のセミナーで聞いています。また実証実験の中で、書籍内のワードを検索した事例では、とんでもない数の書籍が検出されることがあり、素人には使いやすさとは思えませんでした。

今回の講座で感じたのは、音訳・テキスト・点字のデータを作成して下さっているボランティアの方々の活躍について述べられなかったのが残念に思いました。出版社から提供されるテキストや、OCR機能で取り込んだデータの場合、表紙や絵柄、内容に関するイラストの説明は簡素か、単に文字を抜き取るだけになりますが、ボランティアの方々は、読者に表紙の雰囲気、図表などを、いかに分かりやすく伝えるのがベストかを考えて製作されています。私は過去に、書籍の音訳を依頼したことがあり、結果として、サピエ図書館への登録まで進みました。その様な一連の流れを終えて、音訳依頼した本が戻ってきました。予め、どの様に扱っても良いことにしておりましたが、戻って来た本には、無数のメモや難読文字へのルビの記入、何度も読み返しただろうと思われる痕跡が付いて返ってきました。音訳・テキスト化・点字化に多くの手手間が掛かっていることを理解して、利用させて頂きたいものです。

▼2)「西武柳沢駅・東伏見駅」での改札窓口の駅員配置が来月(2月3日(火))から無くなることについて

年末の12月25日(木)に、西武鉄道のホームページのお知らせに、「一部の駅における営業体制の変更について」の案内と、「西武柳沢駅・東伏見駅」の改札窓口横に「駅係員による遠隔対応駅(インターホンでご案内する駅)となります」の案内が掲示されました。この件は駅の利用者さんから、西東京市身体障害福祉協会会長へも連絡が入りました。

27日に、身体障害者福祉協会会長からのお声がけを頂き、急遽、現地(西武柳沢駅)にて西武田無駅助役を交えた説明を頂く事となり、市内福祉関係団体で活動しております「西東京市障がい者福祉をすすめる会」の会長らと共に、駅の掲示などを確認して参りました。助役からのご説明は、「お知らせ」に掲示された内容にとどまりました。その後、いくつかの背景や課題が判って参りました。

西武鉄道に確認したところ、今後に住民向けや障害者団体等への説明会を開催する予定はなく、11月には西東京市に対して今回の件について説明を行ったとしています。住民、障害者団体など駅の運用変更を黙認すべきか、市当局や西武との会話や、説明を求めるかの対応が必要と思っております。ご意見などございましたら、お知らせください。なお、掲示された主な運用の変更内容は、「遠隔対応となる対象駅では、駅係員による乗車券類の発売や精算、窓口での案内対応が終了します。平常時は駅係員の配置はありませんが、異常時など必要に応じて、対象駅または近隣駅の係員が対応するとしています。」、「交通系ICカードを利用する場合は、自動改札機へのタッチで利用します。残額不足などで入出場できない場合は、自動券売機や自動精算機、チャージ機で対応します。残高不足以外の理由で入出場できない場合は、インターホンを通じて駅係員に申し出る体制をとります。」などと駅員との直接対応ができなくなります。

更に、障害者や、駅員に支援を求めなければならない場合について、「乗降車時に駅係員の手伝いが必要な場合は、利用前日の17時まで「介助事前受付サービス」を通じて申し込みを行うことで、スムーズな案内が可能とのこと。事前の申し込みがない場合でも、来駅時にインターホンで連絡すれば対応するとしています。状況によっては待ち時間が発生する場合があります。」となっています。助役からの追加説明では、「22時から7時まで無人駅となり、他の時間は駅内の執務室に1名の駅員が待機しているとのことでしたが、清算や切符の対応が出来ない」とのことでした。

♡あとがき:今月は駅の運用変更について取り上げました。視覚障害者にとっては、駅ホームは「欄干の無い橋」とも言われていますし、切符を購入するのも難しいことがあります。今回の両駅は、通過する列車も多く、とても危険な駅と思って来ました。地元住民の皆様にとって、地元駅は「街の顔」でもあり、なんと寂しいことでしょうか。お知らせの掲示だけで済む話なのかと、疑問を持つのは、私だけでしょうか…。

♡視覚に関して何らかの障害や不安をお持ちの方、支援活動とお考えに賛同頂ける方、是非、協会会長までお声がけください。連絡先は、ホームページからか、電話0422-77-7653(野口 宅)へお願いします。

協会が当局への福祉施策への要請や、皆様一人一人が困っていることの解決や、情報などの交換の場に成れば幸いです。

なお、会員・賛助の会費は、年額1,000円/1口、ボランティア会員は、会費不要です。

■今月は、西東京市視覚障害者協会の野口がお送りしました。